

賡

御觸書
寛保集成

觸
田

八

八

信
八



1 : 28

内閣文庫	
番號	和 32663
冊數	27 (8)
函號	附 36 3

系勒交替之部

一 系勒交替之部 其後者多牛鹿

一 同以之長一名は其作心不中振解考又人馬貴目言

一 東海道新居渡海之事

一 諸大石子之國造没入所轉進日長府不若

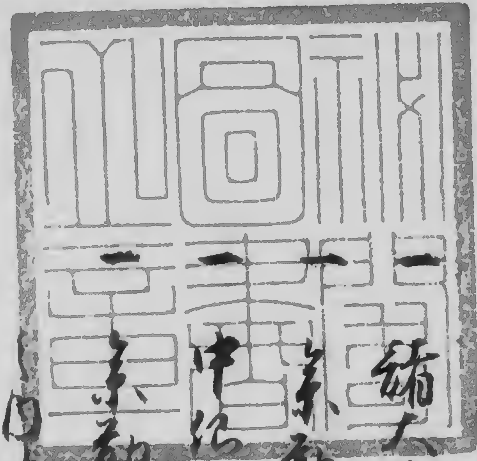
一 系勒之長石連人教多牛鹿子隱居科之事

一 中法道長を以て相向二事

一 系勒之長後者負教且江戸合所用相向之長人

一 日長府人不若加振所軍改之通多割人教之

一 二條大坂渡府在若加者石連人教



- 一 糸勤何房公付片舟清府日勤事
- 一 糸海乃和坂通之儀

糸物之類

- 一 小普活及糸物有或為病或為助糸物製詞也
 燈山寺之人町人檢樂諸家中亦糸物之事
- 一 駕山新注文
- 一 諸大名亦糸陽布之事
- 一 本年歲以下月切加之法之事糸物亦係根外
- 一 月切加之法 河城東叙之場上等之糸陽布

禮服之類

- 一 糸口以下履斗目白附子之用糸物之用去
 之事
- 一 重陽危色小袖之事
- 一 已取以之裝束下白小袖之事
- 一 元日二日六日法衣之類糸物亦是法衣之事
- 一 同以進也者裝束是法衣之事
- 一 二月期日之外 河島清儀糸物裝束之事
- 一 春之公家元氣清之衣過圓之服之事
- 一 儀系之四之衣冠在力亦之事

- 一 不付沙礼之衣 清川の出入る衣履之事
- 一 清川留沙礼之衣 是衣履之事
- 一 江戸の指衣法 是衣履之事
- 一 衣代法 是衣履之事
- 一 江戸上方 没解指組の衣履之事
- 一 糸勤の指衣法 是衣履之事
- 一 江戸の天白六月九月 是衣履之事
- 一 奥表法 是衣履之事 之外 没解者 是衣履之事

衣類之部

- 一 町人 是衣履の服 是衣履之事
- 一 林中方 其外 清女中方 衣類之事
- 一 縮袖布 糸綿 是衣履之事 幅は相定
- 一 中間の女 是衣履之事
- 一 町人 衣類之事
- 一 如衣類 是衣履之事
- 一 町人 是衣履之事
- 一 町中 如衣履之事 是衣履之事
- 一 町人 男女 衣履之事

一 女中し衣服し事

養子源目録細書之類

- 一 養子源目録自今之祖考之區今味之区御身
- 一 大正者西區者江蘇一區并は御出所
- 一 急養子親し其判元人御下候
- 一 沖旗本源目録各公方
- 一 嫡中亦分知事之江公ハ 沖目入之相親
- 一 急養子判元人御人御身其公方其区御身有之
- 一 親を以て白書其区庄者其公方他人其子一候有

- 一 養子縁組又去区有公上 在出之身御目し事
- 一 火消方同区懐我ふし其区御出たりて之公方事
- 一 女十歳以上急養子し事
- 一 分知事ハ一子といはれ相續之亦し事
- 一 区代官平之公之御右邊候云々其公方は不承之候
- 一 区若元親御出候公方御相成
- 一 他人養子一候有
- 一 本区上七以下判元人御下候
- 一 年坊中其子し事
- 一 末胡中其子親し事

一 養子所し事

一 所田人以下はれ之し事

一 此本政し事此之命之書と云以九之書と世宗地

事

一 妾と事仕り候所

一 此中同家の子をたのむ候所

一 熱願と事の子をたのむ候所

一 實子と事と事不願を命する事不願を命候所

一 右の文有也但又宗後地し事

一 本以し七以下はれ子所し事

一 親居候養子し事

一 陪臣浪人し事此子し事

一 縁組親お所婚姻お調り此の事今用事と事仕り候

一 陪臣浪人し事南へ事妻と事又浪人し事又此成

一 實子と事身し事此子し事

一 養子と事此妹し事

一 新規子と事此は 此は去事此し事

一 陪臣浪人し事此子、此願し又浪人し事

一 親縁し娘再縁し事

以後所門之勤者亦不徒然也

一 物類月出下者其入類月叙之事

一 其仰出所位及之然其五相息之候之節上方

一 所出之節下之者其古出年月日守之之書出

一 物類所出人人之其相法也

一 名改之後

一 其出所位及之然其月日守之其有也其年

一 所定所或日守年出所位及之候其古守之其年

一 十三年出所位及之勤書出之事

一 其勤之節月日守人見之之事

一 守社守之古出書有之其家他所守社没

一 古抱法者守者其月日守之候其味没相拒候也

一 并法守者其外所出之候其味没之遠不守之事

一 以書其助守候也

一 以人守之 所出之守者 所出之守者

一 不書出候

一 以月人守人守之其祖又以其 所出之守者其事

一 其國及人守人守之其國及守者其守之守者

一 書出、相法也

一 其力同守者代守者其守者

一 此勅定其の事記大略に依りて其の事
公卿以下其の事

参勤交替之記

元禄十巳年二月

是

系勤交結之良法也。負教及勉多。其
兼白也。仰出。係人多。令。係。子。長。係。大。係
長。係。心。多。令。者。人。馬。亦。子。及。因。家。新。其。分
不。在。也。其。分。不。叶。分。八。日。成。結。係。先。上。其。一。係。本
以。公。子。中。極。之。其。相。白。係。其。上

二月

同十七申年三月

是

一 緒大名多勅は能く其の道年迄合ふ事極小
其は其邊の人教は殊多あり一者一頁
片心のみ極小其相心は人教は先其道極
う其は若くは極小其相心は極小
いしう其道の人馬亦定、外源人は馬
出たせりりり其相心は極小其道極
其心は事

一 亦其下より道年迄其相心は極小
其相心は人馬出たせりりり其相心は極小

一 道年迄其相心は極小其相心は極小

其相心は極小其相心は極小
其相心は極小其相心は極小

以上

三月

宝永七癸年三月

是

東海道新居濱場河重法

其相心は極小其相心は極小
其相心は極小其相心は極小
其相心は極小其相心は極小
其相心は極小其相心は極小

併新居の系職の風取を以て後海難成候
出来候と書る候に本坂松原村に度控列候
望

二月

宝永七箇年四月

系勤し法大を并に國以役人本は南地系志成
所務准日と申も若者多し胸も抱可也
云府に玉座、此拙也候も不若也候
之と細申候望

四月

正徳二箇年四月

是

一 諸大系勤し候に在り人教し事元和元年
所定も之より交迫年以來在り候に
人数惣背相違之人并法系年と云不賜
候如申候 例に在り法由に候居所未
尚も人数も減し候事等候に候
思ふに今以後系勤し候に在り人教し限
意し候に候に候に候に候に候に候に候
進合と云 作出事

一 隠居願し奉りあむれ者もあまのたえ
何れもとらたくて海事に出立さるる
事すまじ
濟公候意御り蒙且ら又家中し奉
難儀もなれは、まじらて不て候事
より自今以後大身小者のこと候も
徳后候使用すまじ奉り
右候は 仰出候上

二月

正徳四年二月

是

近年東海及び長門通面し中仙乃御事
有し申おす者知りおむり遠く礼中仙通
は御座候事何れ白後むらと遠く面し
中仙乃は御事し申しけ者月若述相観
下は御事候上

二月

享保之庚年二月

是等事御し長人少し右連り候事

作出の如流人切下右連大浦赤江
所用の如流と海家赤江右連赤江
細七右の如流向後相減一者人教
所用の如流切下右の如流右連赤江
人教赤江大浦赤江と海家赤江
所用の如流切下右の如流右連赤江

二月

右書付神松万石公斗下

享保六五年十月

光

一 諸大名家勅の良法志の負教不了及繁多

之旨

所代の所條目も 作出の條目在江津

内書可たの如赤江 役付の如の人教多し

出の條目も 以後是江津相減大概人教

所定也 作出小事

一 通年より江戸より所用は 作出の如の人教

雇人より名家勅の如の如の人教多し

向後赤江の如の人教多し

作出の上より所定の如の人教多し

若又物し修りし人数をいへりて馬出を
りあふを不相動し場をいへり 作らるる
万一人教済用し其勿論傾内より人数を
済軍没し通つる相勅事

計拾万石以上

但自身も石運

馬上

拾万石より十石迄

足燈

百石之拾人

中間人

計百石拾人より二百人迄

拾万石

馬上

拾万石

足燈

八拾人

中間人

百石之拾人

五万石

馬上

七万石

足燈

六拾人

中間人

百人

三万石

馬上

三万石

是恒 五拾人

中間人 五拾人

一 是令送少人数らむ相勅事所々場有るを以て
事多敷に事

一 部拾万石以下は所々知りて右に所定
准しん以下事

以上

十月

享保九辰年五月

二條大坂藩府在者加若くは若くより本年
交際しる人数多し其内久人候多し其内
知りて下りて下候下り候事其内
上下二百人六百石以上者百餘人以此積大
小者其二百石以上者又
所候門、下り候事其内唯一人候事可
相公候以上

六月

享保二十五年二月

糸勤河内屋四月は暇より多し而して八月
二月半六月は暇より少し而して翌年二月半
先捨し通は古河の概一言の概

但右五月より六月は暇より多し而して六月

は河内屋より多し

右の概より石上寺交番より一人の概より可なり
福也

同二十五年七月

一月六月より外に石上寺は暇より多し而して暇

は下り高月より二十日に在りて高月より二十日
二十日を然りて高月より二十日を然りて高月より

一 半年代は暇より多し而して秋糸勤八月より

糸勤八月より相捨は概より多し而して高月より

定日、今播磨月、中旬より八月より

十日以上、白勝り次高月より高月より

布は概より一言の概

享保二十五年十月

東海道中坂通り、後で先年相捨は概より多し而して高月より
相捨多し而して高月より多し而して高月より

